

阿部町長
①北海道における平成28年度の農業産出額は1兆2115億円、TTPやEPAの影響による生産減少額は約630億円（約5・2％）と試算されている。農業産出額に占める生産農業所得の割合は42・6％と言われており、生産の減少がそのまま所得に跳ね返ると12・1％の所得に影響があると考えられる。
②労働力の確保、TMRやロボットの活用、預託牛制度を支援しながら、しっかりとした経営基盤の構築を図るとともに、農畜産物に付加価値を付け、食と連携した振興策を進める。
③農村地域の共同活動を活性化させるため、多目

的機能支払交付金事業を活用して、農業用施設のリニューアルを中心に11の組織・団体が活動している。循環型社会を構築するためにも、農村地域の連帯強化と活性化が図られる仕組みづくりを進めていきたい。

**職員不祥事
根絶の取り組み**



奥秋康子議員

①セクハラ行為の事実を認め、管理職員が依願退職する事案が発生した。どのように受け止め、どのように再発防止を図っていくのか。
②懲戒処分基準の見直しが必要ではないか。セクハラは懲戒免職に値するのではないのか。
③過剰の事務ミス等も含め、このたびの一連の事案は個人の問題で生じ

た不祥事として済む問題ではない。コンプライアンス（法令遵守）を意識する取り組みが必要ではないか。

阿部町長
①町民の皆さまの信頼を裏切る結果となり心よりおわび申し上げます。
今回の事案を受け、全体の奉仕者としての使命を深く自覚し、服務規律の保持に一層努めるよう職員に通知した。今後においては「職場におけるセクシャル・ハラスメントの防止に関する要綱」を職員に周知し、再発防止と信頼回復に努める。
②関係法令や国家公務員における基準、他の自治体における事例などを参考に事案の詳細を調査し、職員の懲戒処分等の基準に関する規程に照らして処分を決定した。懲戒処分については、一律に判断することは難しく、個々の事案の状況により判断していく。

れるコンプライアンス研修に管理職を参加させており、今後も全職員を対象に、積極的に取り組んでいきたい。

**持続可能な財政
運営を推進する
ために**

奥秋康子 議員

①まちづくりを進めるには職員一人ひとりが財政状況をしっかりと認識し、施策推進と財政健全化の両立を図りながら予算編成に取り組むべきだと考えるがいかがか。
②予算編成ではどのようなことに留意したのか。具体的内容について伺う。
③予算編成過程をホームページに掲載することに、より町民からの意見を聞くことができる。それらを参考に予算編成最終案を決定してはどうかか。
阿部町長
①予算編成方針を通知する際に、コスト意識を持ち効率的な行政運営を推

進するよう指示しており、施策推進と財政健全化の両立を図りながら予算編成に取り組んできた。
②総務課の調整段階では主に経常コストの精査、副町長査定では施策の推進状況や有効性、緊急度や優先度に重点を置き、町長査定では新規・拡充施策を中心に方向性を再確認し、特に町民や関係団体と一体感をつくり出していきけるか、効果的な事業となっているかという点に留意した。
③いくつかの市町村が当初予算要求状況をホームページ上で公表しているが、その多くが予算要求額の集計状況に留まっている。集計結果だけを公表することは可能であるが、最も重要な町民の意見を求めるという点では、まちづくり懇談会や各種関係団体との協議を実施した中で予算編成を進めているので、ホームページ掲載による意見の募集は考えていない。

**食の拠点構想の
青写真は**



口田邦男議員

清水公園を再開発して観光拠点とし、交流人口を増加させるため物産販売や観光の振興を促進するとの話であったが、平成30年度の予算案を見る限り食の拠点構想に結びつく具体的な青写真は見えてこない。あの新聞報道により町民が関心を寄せているのは事実である。この事業が単なるパフオーマンスに終わることなく、町民がなるほどと思う青写真を明らかにすべく考えていかかかか。

阿部町長

休業中である公園内事業所の再開に取り組み、本町の食を広くアピールするため観光協会や商工会等と連携し、国道を往

**公共施設の
改修・耐震化と
財源裏付け**



再開発構想について検討を進めている清水公園

口田邦男 議員

近い将来、道東で大地震が発生する可能性があるとの報道があった。本町はこれに対応するため古い公共施設の改修や建

て替え等を行っていかなくてはならない。しかし、実施が近い事業の財源の説明を受けて、基金の繰入れや地方債による借金をすることも財政破綻への道へ進むのかなという思いに至った。
中期財政推計によると心配な点のことであったが、財政推計に含まれていない今後の大型事業と、その大型事業の財源の裏付けについて伺う。

阿部町長

中期財政推計（平成30年度から平成34年度）に含まれていない今後の大型事業としては、耐震化・老朽化という点で、御影公民館、御影分遣所、体育館の3施設が建て替えの方向にある。また、給食センターでは大規模な設備更新が必要となっている。
財源は世代間負担の公平の観点や交付税算入制度から、地方債を見込んで

**町長一年の検証
及び今後のある
べき姿と抱負**

口田邦男 議員

町長就任以来、いろいろなどころへ出向き、積極的に町民と対話し、信頼関係の構築に努力されていることは評価する。今後町長はどのような方面に力を発揮していただけるのかを伺う。

阿部町長

町民の皆さまのまちづくりへの疑問や思いを受け止めて施策に生かすには、まず直接話を聞き、行政の取り組みを理解していただき、新たな解決策を考えて取り組むことが重要だと考えている。
まずは、台風災害からの完全復興を目指し、人口減少対策と子育て支援に積極的に取り組む、農業をはじめとした産業の振興、雇用・労働力の確保について更に進めていきたい。

**図書館・郷土史
料館を生かした
まちづくり**



北村光明議員

平成28年12月の議会でも「まちづくりとしての図書館・郷土史料館の活性化と運営」について一般質問を行ったが、その後の検討について伺う。
①運営については社会教育委員の会議で審議しているとの答弁であったが、どのような審議がなされ、成果があったのか。
②寄贈された書籍や文芸誌は自由に閲覧できるようにしているか。
③図書館・郷土史料館に関わるサークル活動に対しては、支援を強化する考えはないか。

伊藤教育長
①社会教育委員からは図書館の事業内容は充実しているが、郷土史料館は

**公的病院等への
特別交付税**

北村光明 議員

展示内容を考える時期にきているのでは」との意見をいただいている。
町の歴史を保存する上でどのような形が望ましいのか意見をいただきながら工夫・改善に努めたい。
②寄贈されたものは内部規定を基に受け入れの検討を行い、受け入れた場合には自由に閲覧できるようにしている。保存を優先する貴重な資料であると判断した場合には申し出を受けて閲覧してもらうこともある。寄贈者には「受け入れの判断は図書館に任せほしい」と説明し、了承をいただいている。
③読み聞かせサークルは会員の高齢化等により活動に制約が出始めており、新たな参加者を掘り起こすべく、読み手育成講座を今年1回開催している。今後も継続して開催するとともに、資料や情報の提供等を行いサークル活動を支援していく。

阿部町長

①清水赤十字病院に対する助成に対し、平成23年度は翌年度措置のため前年度助成実績分であったが、平成24年度以降は各